

2022 年度 個人研究実績・成果報告書

2023 年 4 月 21 日

所属	商経学部	職名	准教授	氏名	藏田 幸三
研究課題	持続的な地方創生政策に関する実証調査～SDGs と地域経済循環の視点から～				
研究キーワード	地方創生、SDGs、地域経済循環、公民連携、人材育成	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	17. パートナーシップで目標を達成しよう	8. 働きがいも経済成長も	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	4. 質の高い教育をみんなに	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>本研究は、持続的な地方創生政策に関して、SDGs と地域経済循環の視点から、島根県海士町を対象として、実証的な調査・研究を行った。</p> <p>COVID-19 の影響を受け、国、地方自治体の第 2 期の地方創生の取り組みは、見直し・修正を迫られている。離島である海士町は、その影響を最も強く受けている地域のひとつであり、地方創生の先進地として、その対応は多くの地域の参考・示唆となると考え、大江町長・吉川副町長をはじめ、町役場の関係各課の職員へのヒアリング調査を実施した。</p> <p>海士町では、集落ごとの細分化された地域経済循環関連のデータを収集し、見える化を行っている。小規模自治体であっても、生活圏・経済圏の最小単位は町丁目、集落単位であり、そのレベルでの情報・データを蓄積することにより、住民が EBPM・データに基づいて考え、判断するための材料を提供することができる点で、優れた取り組みであると考えられる。</p> <p>文献調査と現地調査を行うことにより、第 1 期・第 2 期の地方創生総合戦略の実態について明らかにするとともに、地域全体の持続性・SDGs の観点から、第 1 次産業から第 3 次産業（公共サービスを含む）の地域経済循環の構造・流れを検証した。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文（査読あり）】</p> <p>なし</p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <p>なし</p> <p>【学会発表等】</p> <p>なし</p> <p>3. 主な経費</p> <p>出張旅費（海士町等）、データ分析用の消耗品、関連書籍等</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p>【その他の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政改革推進委員会委員（川崎市・政令市） 顧問（区民協働）【非常勤特別職】（杉並区・特別区） 					

- ・行政改革推進委員会委員【副委員長】（茅ヶ崎市・中核市）
- ・指定管理者等選定委員会委員【委員長】（茅ヶ崎市・中核市）
- ・FM（ファシリティマネジメント）委員会委員【委員長】（津山市・一般市）
- ・民間提案制度選定委員会委員（津山市・一般市）
- ・庁舎整備あり方検討委員会（杉戸町）

（本文は2ページ以内にまとめること）